

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

ハロー フレンズ

ファイセック

FICEC

発行

ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2008年 **6**月号(隔月刊) 第97号

ふじみの国際交流センター 平成20年度総会を開催!

6月15日(日) 13:00 ~ 場所: 上福岡西公民館

(ふじみ野市上福岡5-2-12 上福岡駅徒歩3分)

総会終了後

10周年イベント 会員・利用者・スタッフ・ボランティア交流会 『隣の芝生を覗いてみよう』を開催

ふじみの国際交流センター(FICEC)が活動を開始して早10年になろうとしています。そして現在、センターでは、20近くものプロジェクトや事業が展開されています。これらのプロジェクトや事業には、多くの人たちがスタッフとして参加しています。また必要な時はいつでも協力してくれるボランティアもたくさんいます。各メニューはどんな内容か、どんな人達がスタッフとして参加しているのか、お互いを知り交流する機会です! ぜひご参加ください。

参加無料

英国スタイルで、紅茶・コーヒー・ジュースやクッキーを楽しめます。

14:00 ~

プログラム

- 1 センターの歴史とミッション
- 2 各活動内容の紹介
 - ・生活相談、シェルター
 - ・語学教室、国際こどもクラブ
 - ・国際わいわいクラブ
 - ・インフォメーションふじみの
 - ・ハローフレンズ、ホームページ
 - ・子どもと共に育つ親の会
 - ・パソコン教室
- 3 質疑・意見交換
- 4 交流会

満開の桜を見ながら 日本の琴と中国の二胡をともに楽しむ

身を惜しむことなく、心の美しさを花吹雪にして舞い散らす桜の季節がやってきた3月27日、私たちふじみの国際交流センターも日本語教室の学習者を交えて観桜会を開きました。

サ・ク・ラ、秋、冬を問わず1年を通して常に身近で見ることが出来る馴染み深い花ではありますが、春、この時節のナマ(・・)花(・)はまた格別なものです。(何を言ってるのですか、サクラは春に決まっているでしょう。ヒカンサクラ、カワヅサクラは有るでしょうが・・・。ちょっとお財布を開けてみてください。ほら、100円硬貨のデザインがサクラではありませんか)

今年も私たちの街にも、生きている喜びを与えてくれる幸せ伝道者“桜”の訪いを見ました。

KANOUKAI (観桜会)、易しく言えば”お花見”ですね。場所はふじみ野市にある中央公園、例年お花見客が集まる人気スポットです。

11時、外国籍市民を多く交えた40数名のお花見会の始まりです。

突然、嫋嫋(じょうじょう)とした二胡の音色が桜の花びらに乗って流れてきました。特別出演を快諾してくれた富士見市つるせ台小学5年生の紅さん(中国国籍)の演奏です。「桜」の曲を始めとして、日中両国のサウンドを楽しませてく

れました。

続いて真打登場です。歯もない・・(間違いです)、葉もないところに花が咲くということで古来生命力の強さの象徴として愛されてきた桜と同じく、芸術の強さを披露してくださるセンター選りすぐり6名の箏曲演奏家の登場です。

お師匠さんは、琴の世界では珍しい流派という八橋検校流の継承者半田さん。

「さくらさくら」「花」を始めこの季節に馴染みのある名曲を数曲披露してくださいました。思わぬ琴の音色に歩みを止める桜を愛でる人、ひと、ひと。こうなれば当然理事長石井さんの独壇場です。早速センターのPR、パンフ配りです。

花もよし、音色よし、次は食、特別注文の花ご膳を手にして食良しの三点セット、まさに春爛漫を満喫した観桜会でした。

外国籍市民との共生を目指す「ふじみの国



際交流センター」、日本の美しさ、伝統をもあわせ伝えていけることの喜びを体にしみこませられた楽しい1日でした。これからも1年を通して日本の文化と伝統を伝えられる機会をもっと持ちたいものだと痛感し、同時にこの会の演出を支えてくださったセンターの皆さまにも厚い感謝の気持ちを表したく思います。

(文：岩田仁)

桜を見ながら琴の演奏を楽しむ



小学校5年生の紅さんが二胡を演奏 →

私も弾いてみたいな ↓



増加する在日外国人、国際結婚、 そして外国籍の子どもたち ますます多文化共生の施策が必要

10年で1.5倍となった 外国籍市民

少し古い数字になってしまいが、2006年末における外国人登録者の総数は208万4,919人で、日本の総人口の1.63%となっている。ちなみに、1996年末の外国人登録者数は141万5,136人だから、10年間のあいだで外国人の登録者数は約1.5倍になったことになる。

外国人登録者の国籍別内訳を見ると、韓国・朝鮮が全体の28.7%を占め、次いで、中国(26.9%)、ブラジル(15%)、フィリピン(9.3%)、ペルー(2.8%)、米国(2.5%)と続いている。また、登録者数を都道府県別で見ると、東京都の36万4,712人がもっとも多く、以下、大阪府(21万2,528人)、愛知県(20万8,514人)、神奈川県(15万6,992人)、埼玉県(10万8,739人)、兵庫県(10万2,188人)、千葉県(10万860人)、静岡県(9万7,992人)、岐阜県(5万4,616人)、京都府(5万4,213人)と続いている。

在留資格でもっとも多いのは、「永住者」の40.2%。次いで「定住者」が12.9%となっており、この二つで半数以上を占める。これに、「日本人の配偶者等」が12.5%、「留学」が6.3%と続いている。対前年比では、「研修」及び「就学」がそれぞれ約30%増加、しかし「興行」は42.1%減少している。

日本人男性と外国人女性の組み合わせが8割の国際結婚

一方、厚生労働省が発表した平成19年(2007年)の「日本における人口動態—外国人を含

む人口動態統計」によると、2006年の日本人と外国人との国際結婚は4万4,701組。その内訳をみると、日本人男性と外国人女性の結婚が3万5,993組と、8割以上を占めている。こうした国際結婚は、近年増加傾向で、全体が11年前の1995年の2万7,727組から1.6倍に増加しているのと同時に、日本人男性と外国人女性の結婚も95年の2万787組から1.7倍に増加している。

なお、同年度の日本人同士の結婚件数は68万6,270組。統計上では、国際結婚は全体の約6.1%を占め、だいたい16.4組に1組の割合となっている。

こうした国際結婚の国別内訳を見ると、日本人男性と外国人女性の組み合わせの場合は、女性の出身国ではフィリピンが第一位で1万2,150組、第二位が中国で1万2,131組となっている。また、日本人女性と外国人男性の組み合わせでは、男性の出身国の第一位は韓国・朝鮮、第二位は米国となっている。

日本の学校に転入学する外国籍児童生徒が増加

以上のような在日外国人の増加、国際結婚の増加と並行して進んでいるのが、日本の学校で学ぶ外国籍の児童・生徒の増加だ。文部科学省では、1990年ごろから日系人を含む外国人の滞日が増加し、これらの外国人に同伴される子どもが増加したことから、1991年より「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査」を行っている。その2006年度調査によると、全国の小中学校などに在籍し、日本語指導が必要とされる外国



日本語指導が必要な児童生徒数
(文部科学省ホームページより)

籍児童・生徒は2万2,413人。その推移はグラフのとおりだが、年ごとに増加傾向となっている。

× × ×

日本には、過去の戦争時における「日韓併合」などの施策から、多数の韓国・朝鮮籍の人たちが在住している。これらの人々は生まれも育ちも日本であり、国籍だけが韓国・朝鮮という人たち。それに対して、近年の外国籍市民の増加は、ブラジル、ペルーなどの日系市民や、中国、フィリピンといった近隣諸国から来る人たちが増えていることによるものだ。

日本は近年の少子化により、労働人口の減少が顕著となっており、さらには出生率の低下から人口減少という状況となっている。いわば、日本人だけでは必要な労働さえまかなえない状況にいたっている。こうした中、外国から来ている人たちと日本人とが共に日本の中で幸福を享受するという「多文化共生」の考え方が、いまほど必要になっている時代はないといえる。

今回紹介したのは、単なる統計数値にしか過ぎないが、そうした数値の中から、いまの私たちに必要な事柄が読み取れるような気がする。(取材・文：福田雅伸+内藤忍)

2008 DV被害者支援ボランティア研修会



女性の問題
にかかわる相談員
及び関係者の
スキルアップ研修

7月6日(日)
PM.1:30~3:30

場所/ふじみの国際交流センター

講師

(有)フェミニストセラピィなかま 取締役社長 海渡 捷子
ーフェミニズムの視点からのカウンセラー

主催 認定NPO法人
ふじみの国際交流センター

後援 内閣府 埼玉県

参加申込み ふじみの国際交流センター
tel/049-256-4290 fax/049-256-4291
http://www.ficec.jp

文化の違いが誤解の大きな原因になる お互いに理解し、 尊敬しあえる関係を構築したい

コウ・ヨウジュン

(ハローフレンズ編集委員、中国上海出身留学生)

靖国神社は戦争で犠牲になった兵士達を記念するために作られた神社です。しかし、その一方で、アジア各国から見ると、かつての日本の軍国主義のシンボルとしての神社でもあります。中国では、靖国神社にA級戦犯と言われている方たちが祀られていること、そして右翼団体などが参拝していることに対して批判の意見が非常に多くなっています。好奇心の強い私は、その場所がどうなっているのか自分の目で確かめたいと考え、日本の知人と一緒に靖国神社へ行ってきました。

ちょうどその日は休日でしたので、ほかの神社と同じ、家族が子供を連れて散歩したり、海外から来た観光客が記念写真を撮ったり、ものすごく穏やかな雰囲気でした。私が中国で想像したイメージと違って、けっして右翼の場所ではないと感じました。

しかし、どうして中国や韓国が靖国神社に対して、こんなに反対してるのでしょうか。私はいろいろ調べました。その結果、文化の違いが大きな要因ではないかと考えています。日本では、死者の霊を神として祀り、崇敬の対象とする文化・伝統が残されています。日本人は昔から、死者の霊はこの国土に永遠に留まり、子孫を見守ってくれると信じてきました。これは神道という宗教です。靖国神社はそういう日本固有の文化実例の一つということが言えるでしょう。そう考えると、なぜ靖国神社に戦争で亡くなった兵士たちが祀られているのかを理解できるようになりました。

私は国と国の間に、お互いの文化を理解し、尊敬しあう関係を構築する必要があると思います。どんな理由があっても戦争は戦争、国民に災難しか与えません。政治的な理由のため、いろいろな問題を起したり、お互いに非難したりでは、戦争のせいで亡くなった国民と兵士たちが本当にやすらかに眠れるとは思いません。これから、国際化がどんどん進んでいきます。そうした社会の中では、国と国の問題について、冷静に問題をみる素質を身につけなければなりません。お互い理解でき、譲り合いができる本当の平和社会を目指したいと思います。



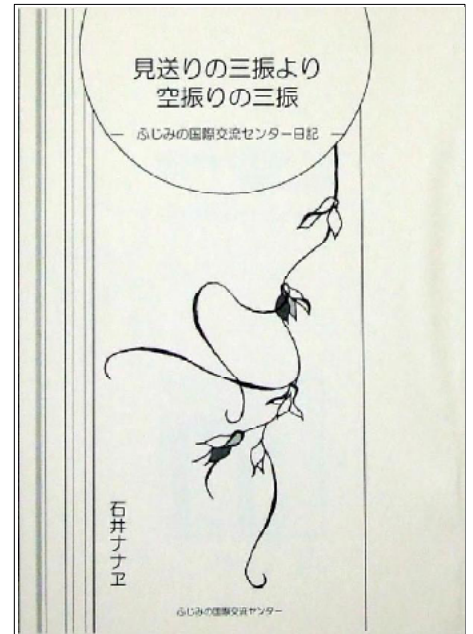
一人の女性が地域で外国籍市民と かかわってきた活動の記録

見送りの三振より空振りの三振 ふじみの国際交流センター日記

石井ナナエ著

頒布：ふじみの国際交流センター

価格：500円



本書は、地域に住む外国籍の人たちの自立支援と市民との交流活動を通して、多文化共生社会を目指すふじみの国際交流センター（以下、センター）の理事長が、センター開設10年を機に、いままでに書きためたものを、日記風エッセイにまとめたものである。

センター開設までの経緯や動機、開設からの10年の歴史が多数の実例とともに書かれている。巻末には、政府発表による日本に在住する外国人のデータや、センターについての統計もある。

注目すべきは、主に3点。まず何より、豊富な生活相談の実例だ。現在、どのような問題があり、何に悩む人がいて、どんな手助けを必要としているのか。センターとしては、どのように対応してきたのか。いずれも、具体的に、かつ、短い文章でまとめられているので、わかりやすい。その時々、怒りや決意が、ストレートな言葉で書かれていることも伝わりやすい理由のひとつ。

そして、センターの運営について。どうして日本語指導から始まった活動が、生活相談のみならず、国際理解講座をしたり、外国語教室を開いたりするほど、広がったのか。行政とは、どのように関わっているのか。それ

はどのように変化してきたのか。運営資金はどう集めて、なにに困っているのか。これらは、同じようにNPOを運営している方々にとっても、共感したり、参考になったりすることがあるのではないだろうか。

最後に、これは、ひとりの女性の成長の記録でもある。特別な知識も経験も資金もない、どこにでもいるひとりの女性が、なぜこういった活動を始め、続けているのか？ 本書は、けして成功談ばかりではなく、外国人との出会いのなかで、いやな思いをしたことや、がっかりしたことも書いてある。それらをどう乗り越え、なぜ彼女は、続けるのか。

プロの文筆家ではないため、うまい構成でも、優れた文章でもないが、それだけに余計、近所にいそうな身近な女性が、少しのきっかけから、行動を起こし、賛同する仲間を集め、周りを動かし、変えていったことが、奮闘している姿が、伝わってくる。

NPOに関わっているひとには、具体的な事例が参考になるし、そうでないひとには、ひとりの人として、なにかを始めることの大切さ、それを続けることの難しさ、たのしさを知ることが出来る貴重な一冊だと思う。ぜひ、おすすめしたい。（上原美樹）

**センターの活動をご支援ください
会員・賛助会員・寄付のご案内**

●活動を担う会員……正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

●センターを財政的に支える会員……賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口 3,000円、団体1口 10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
口座名：ふじみの国際交流センター

ご寄付をいただいた方々

ご支援ありがとうございます

●2006年4月～（50音順・敬称略）

穴沢エミリン 伊藤智明 伊藤真弓 いも煮会 上島直美
小澤ヴィクトリア 小原富明 オムテック(株) 葛西敦子
加藤久美子 金子忠弘 金子康子 上福岡教会 候
国際ソプロチミスト 後藤泰弘 駒形一夫 菅山修二 鈴木
譲二 堰代仁子 染谷英子 高橋郁子 高橋智子 武
田和子 立麻医院 寺村壁如 中嶋恵津子 萩原千代
子 長谷川美紀子 ハナロウ会 羽石電気 半田栄子
東入間防犯協会 深見水季夫 三澤真理 村上省三
百瀬 滉 森田信子 矢野やすこ

●ご寄付は税金の控除や損金参入の対象となります

ふじみの国際交流センターは、国税庁からの認定を受けた「認定NPO法人」ですので、ご寄付は、法人であれば損金参入が認められ、個人であれば寄付控除の対象となります。

ふじみの国際交流センター（FICEC）のスクール、クラブ

<p>日本語教室 「生活に役立つ日本語の習得」を目標に、日本人が日本語で教える教室。 ●毎週木曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>国際こどもクラブ 日本語が不自由な子どもたちに日本語や勉強を教えます。 ●毎週土曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>パソコン教室 外国人、日本人にパソコンの技術指導をします。 ●月2回土曜日開催 午後1時～3時 受講料：日本人1000円 外国人300円</p>
<p>中国語教室 学習者の中国語能力により、初級、中級上級に分かれて学習します。 ●毎週金曜日 午前10時～12時 冷暖房1回200～300円</p>	<p>韓国語教室 韓国語初級講座。韓国人の先生が、やさしく丁寧に教えてくれます。 ●毎週月曜日、水曜日 午前10時～12時 1回500～1000円</p>	<p>英語教室 グループレッスンです。 ●毎週水曜日午後7時～ 受講料：月4回4000円 ●第二、第四火曜日 午後1時～3時 受講料：月2000円</p>

編集後記

あなたも編集委員会に加わってください。大歓迎です。

■ドイツに行って来ました！食事しようと思っても、メニューがまったく読めなくて、注文したものが出てくるまで、ドキドキ。電車が事故で止まってしまったときは、オロオロ。言葉がわからない大変さを実感しました！（上原）

■私まだ中国にいるとき、日本についての報道は中国側のインターネットやテレビでしか知ることができませんでした。日本に来てから、こういう環境で報道されたこ

とをそのまま信じてはいけなかった。日本のメディアも、中国についての報道は悪い面のほうが圧倒的に多い。お互い理解でき、譲り合いながでできる本当の平和社会はまだ遠いと感じます。（黄）

■Chiquita、Dole、甘熟王。いずれもフィリピン産のバナナ。各メーカーのHPには、栽培方法、バナナを使ったレシピなどが掲載されている。バナナといえば、鶴見良行著の『バナナと日本人』。「身近な

食材を通して日本と途上国の関係とその構造」を追究。バナナひとつ取っても学ぶべきことは多い。（福田）

■ミャンマーのサイクロン被害、中国四川大地震の被害による犠牲になった方々に心から追悼いたします。テレビに映る被害の様子は本当に心が痛いです。こういう時に同じアジアの人たちが一人でも多く救われるよう、日本からの支援も活発化してほしいと思います。（篠島）

編集スタッフ

発行者：石井ナナエ（センター理事長）
編集委員（50音順）：阿澄康子、荒田光男、岩田仁、石原怜実、上原美樹、王祺、王賛博、川田明香、黄耀潤、斉藤恵子、篠島幹昌、内藤忍、長谷川正江、福田雅伸、山崎友理

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
Tel: 049-256-4290 Fax: 049-256-4291
生活相談専用電話: 049-269-6450